

デザインの実践力を高めるプロジェクトの取り組み

美術教育・千代田憲子

1. 授業の概要

本授業は、造形芸術コース専門教育科目の選択科目 A として 2・3 年次後期に実施している。造形芸術コースは、2 年次より彫刻・工芸・絵画・デザインの 4 専攻に分かれ、専攻はゼミの役割であり卒業研究へと繋がる。今期の受講生数はデザインを専攻した 3 名と 2 名の計 5 名である。

コース発足当初から異学年合同の授業形態をとっており、その効果は既に確認している。前期のデザイン課題研究 I(2 年次)では、表現技法の深化に取り組み、デザイン課題研究 III(3 年次)では、編集力と構成力の深化をはかっている。後期は、これまでも個人(3 年次は同学年)で取り組む課題と平行してグループワークによるプロジェクトを設定し、学外発表を実施している。本報告はこのプロジェクトを主とする。

なお、近年に通年科目のデザイン自由研究 I・II から前・後期科目のデザイン課題研究 I・II・III・IV へ移行したため、単位や成績に関連して課題の区切りが以前よりも明確化している。

〈授業の目的〉

テーマの方向性に沿って、問題点を発見し、企画・デザインする。社会や生活との関連性の上でデザインを捉える。

〈到達目標〉

デザイン課題研究 II

- (1) デザイン制作のプロセスを身につける。
- (2) 公共のデザインを通して地域を考える。
- (3) わかりやすいプレゼンテーションを試みる。

デザイン課題研究 IV

- (1) テーマに沿ったデザインサーベイを行い、コンセプトを反映した制作を行う。
- (2) オリジナリティの高い表現を目指す。
- (3) プレゼンテーション能力を高める。
- (4) デザイン提案後の検証に努める。
- (5) 社会との連携を含めた実践的な活動をする。

〈スケジュール〉

(第 1 回) 夏休み課題の合評と課題の説明

2 年次: B1 ポスターとプロジェクト

3 年次: ホームページとプロジェクト

(第 2 回-第 5 回) 調査をとおして現状の問題点を検討し、コンセプトをたてて全体の流れを把握し、アイデアを展開

(第 6 回) プロジェクトの中間発表

(第 7 回-第 13 回) プロジェクトの追加調査と分析・考察を通して、提案のためのパネルと模型制作をすすめ、プレ発表

(第 8 回) B1 ポスターとホームページの中間発表

(第 14 回) プロジェクトの学外発表

(第 15 回) B1 ポスターとホームページの合評

〈授業の工夫〉

デザインの現場で不可欠なマネジメント力や計画性を育むために、敢えて課題を併設しているが、2 年次の B1 ポスターは自由度の高いものにしていく。3 年次のホームページは従来版のリニューアルや 4 年生から既存データやアドバイスを受ける仕組みとしている。

プロジェクトでは、パブリックデザインの一環として、中心市街地「大街道」の活性化をテーマに、デザインを学ぶ学生の立場から夢を描くというアバウトな部分を含むことにより、自由な発想と現実との距離をはかりながら進めた。また、コミュニケーション力を養うために、話し合いには十分な時間をとり、演習室内に固有のスペースを保持して継続性を高める環境を考慮した。前半には、学外調査やワークショップへの参加を行い、中間発表で松山市役所都市整備部都市開発課に意見を求め、客観性を持った提案になるように努めた。なお、昨年につき「街のデザイン展 2」として、坂の上の雲ミュージアムにおいて展示とプレゼンテーションを行い、学外で発表する責任と緊張感を持つ経験とした。

2. アンケート結果(自由表記)

① プロジェクトに対する感想

・最初は戸惑ったが、自由に提案できた。

- ・題材にはあまり興味が持てなかったが、愛媛に住んでいながら知らなかったことや、観光客や年配の方の意見を聞いて良かった。
 - ・連絡やディスカッションや調査について学ぶことが多くて勉強になった。
 - ・グループワークの経験はこれからすごく役に立つと思った。
 - ・グループワークの難しさがわかった。
- ② 学外展示および準備に対する感想
- ・外部の方と話をする機会を持てて良かった。
 - ・最初は学外展示に弱腰だったが、達成感がこみ上げた。
 - ・次回は広報にも力を入れたい。
 - ・来年が不安。今のうちに確認しておきたい。
- ③ B1ポスターに対する感想
- ・同時進行でマネジメントの大切さを知る機会になった。
 - ・自分らしさを自覚して、さらに自分だけの表現を追求したい。
 - ・自由で楽しかったが、詰めの甘い所を直したい。
 - ・気楽にやれたが、入稿が思ったより大変だった。
- ④ ホームページ作成に対する感想
- ・知識がゼロでこれから勉強する。
 - ・3年生の後期は難しい。
- ⑤ この授業の良かったところ
- ・授業時間を組み替えられる。
 - ・話し合いのホワイトボードを保存できた。
 - ・ポスターの中間発表がプロジェクターで実物大に出来た点。
 - ・グループワークは本当に勉強になった。
 - ・グループワークは良い経験になった。
- ⑥ この授業の改善点や取り組みたい課題
- ・就職活動が大変そうでグループワークは前期にしたい。
 - ・街づくりのデザインはちょっと遠慮したいけれど、最終的には興味深い内容でした。
 - ・地域の伝統工芸についてやってみたい。
 - ・就職活動と重ならないようにしてほしい。
 - ・グループワークの題材を自由に考えさせたら良い。
- ⑦ 授業後のアップ率:およその目安
技術 10-40%・考え方 40-60%・感性 20-60%アップしていた。
- ⑧ モチベーション:およその目安
概ね、中盤から後半にかけて 10-40%アップしていた。

3. 結果のまとめ

プロジェクトは、2回生が2名ということもあり、例年よりやや負担が重い結果となったようだ。提案

内容とプレゼンテーションに関する記述がないのは、分担の偏りも原因と思われる。少人数ゆえに、表れない部分もあるであろう。授業後のアップ率は、思考力に重点を置いていたので妥当であろう。自覚しているモチベーションの個人差に改めて驚いたが、制作が時に滞ったことも納得された。

4. 授業の達成度

展示の準備で全体が俯瞰できた時に達成感を味わったようだ。

学外での展示発表により、制作以外にも企画・渉外・広報・展示・発表という一連のながれを経験し、3年生にとっては卒業研究と卒業制作展の良いトレーニングとなり、2年生には次年度活動のイメージを育てている。

模型やパネルの制作内容が、進捗状況によりやむを得ず変更した点もあった。

なお、展示会場に準備した感想ノートの記述が少ないこともあり、1号館4階リフレッシュルームで展示を継続して意見を聴取したいという希望を出して実施したことは、前向きで好ましい。

3年生のホームページ作成は完成にほど遠い段階で放置しており、状況を高所してもその姿勢には問題が残る。

5. 次年度への課題

就職活動が重要であり大変な状況であることは言うまでもないが、そのために課題の期間を替えて欲しいと言う要望が出るのは、これまでになかったことである。昨今浮き足立った時勢のなか、ますます落ち着いた3年次の学習は懸念される。しかし、デザインの現場で力を発揮することがデザインを専攻する学生の主な人生設計である。困難もあるが、次年度は前期の中後半から後期の前半あたりでの期間設定に努めたい。

プロジェクトの題材設定の検討から始めると、期間が長期化して他にも影響し、中だるみも考えられる。

デザインは、明確な到達イメージを描いて一定の成果を出すことであるから、試みで終わらないよう、慎重な検討を重ねて蓄積していきたい。

